

7 NEWS

石の素晴らしさをより多く
の方にお届けいたします

皆様、こんにちは！

当社の理念である「石文化の進歩発展に貢献する」の実現に向け、石材業界の発展にお役に立つ情報をお届けするニュースレターの第8弾です!! 今回は困った時のお助け商品として、染みこんでしまった油染みでお困りのときにおすすめしたい「オイルキラー」をご紹介します。これまでにご使用いただいてない方にも、これから先の「困った!」時のために、ぜひご記憶いただきたい商品です。

また、弊社ホームページでは、商品の詳細カタログや使い方の動画なども随時UPしておりますので、ぜひご覧ください。

TOPIC 1

石材に付着した汚れを解決する方法 <PART.3> ～ 強力浸透反撥浄化剤「オイルキラー」～

作業中に機械の油が垂れた、石材を運搬中にクレーンの油が垂れた・・・こんなふうに油が石についてしまった、なんて経験はございませんか？ 油は石への染みこみが早く、表面を拭いたり洗ったりするだけでは染みこんだ油を除去することはできません。

こんなときは「オイルキラー」 染みこんだ油を「吸い寄せて」しまうことで、石から油を取り除きます。

オイルキラーの他に準備した方がよいものは

- 養生用のテープ (油染み以外のところは養生しておきましょう)
- 同じ大きさのプラスチックカップ2個 (オイルキラーの粉末と液体をそれぞれ計り取るのに使用しますので、同じ大きさの方が量が分かりやすくなります。目盛りがなくても大丈夫です。)
- パレットとヘラ (粉末と液体を混合するのに使用します。ヘラはオイルキラーを塗りやすいように幅のあるものがよいでしょう。)
- ビニール手袋 (液体Bは揮発性液ですので、直接手に触れないようにします)
- コテ (混合したオイルキラーを塗りならすのに便利です。混合する際に使用したヘラで代用も可能です。)
- ラップフィルム (早く乾燥しないように塗布部を覆うのに使用します)
- たわし・スポンジ (乾燥した粉末を除去する際に使用します)
- バケツとぞうきん
- 古新聞 (乾燥した粉末を集めるのに便利です)
- ドライヤー (水洗い後の石表面を乾燥させます)



<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>4</p>
<p>5</p>	<p>6</p>	<p>7</p>	<p>8</p>
<p>9</p>	<p>10</p>	<p>11</p>	<p>12</p>

今回は2カ所の油染みを除去します。油染みの周辺は念のため養生しておきましょう。

プラスチックカップで粉末Aをパレットへ、塗り広げる面積をイメージして、粉末の量を調整してください。今回の油染みは広がっている方は200mm四方内の大きさですが、1合カップで7分目ほど使用しました。

もう一つのプラスチックカップで、液体Bを計量します。先ほどの粉末の量と液の量は1:1程度です。

ヘラを使用してよく混合します。このとき液の割合が少ないと、ボンボンとしてこの後の塗り広げる作業がやりにくくなります。

油が垂れた部分にべったりと塗り付けます。

塗り付ける面積が広い場合は、コテを用いて全体に均一に広げてください。

時間をかけて油をしっかり吸着させるために、オイルキラーが早く乾燥しないようラップフィルムで覆います。この状態で12時間放置します。

放置後、ラップフィルムを外してオイルキラーを乾燥させます。

乾燥したオイルキラー(粉末状態)を除去します。

石材表面に残った粉末はたわしやスポンジでこすりながら水で洗い流します。

乾燥させます。

油が除去できました。もしこの段階で油が残っていたら、再度これまでの作業を繰り返してください。

オイルキラーは染みこんだ油を吸着させることで石材から除去します。そのため、オイルキラーが吸着できる油の量に対して染みこんでいる油の量が多い場合は、1回の作業では除去しきれません。でもオイルキラーは中性で石材表面を傷めることはありませんので、何回も塗布することができます。ですから再度、オイルキラーの塗布・放置・洗浄を繰り返して、染みこんだ油を吸着しきるようにしてください。吸着するのに時間がかかりますが効果は抜群です！ また動植物油の洗浄、シミ抜きにはアルカリ性のアブラリムーバーという商品がございます。染みこんだ油染みにお困りの時は、ぜひお試しください。<動画も作成しております。ぜひご覧下さい>

TOPIC 2

地震から変わりつつある、お墓の耐震施工方法

熊本地震から8ヶ月程経過し、倒壊したお墓の復旧作業は非常に困難であると同っております。そんな折、10月26日に震度6弱の鳥取県中部地震、11月22日には震度5弱の福島県沖地震が連続的に発生しております。昔ながらのノコでの施工や、石材専門の接着剤を使用していない施工、石材専門の接着剤の使用量が適量でないお墓は軒並み倒壊しているという現状を目の当たりにしました(Vol.2参照下さい)。

最近、各地でボンドやアンカー、金具といった耐震施工の勉強会の依頼を受ける機会が増えてきました。先日も石材産業協会が主催するストーンアシストでも耐震施工の勉強会をさせて頂く機会を頂きました。実施後の感想で多いものは①適正な接着剤の使用量と使用方法について ②アンカーの特性についての2つです。勉強会では弾性ボンドの適切な使用量のサンプルをお配りし、実技によるアンカーのご紹介もさせて頂いております。家にも耐震施工があるように、お墓にも耐震施工を施すことで、予期せぬ地震から倒壊を防ぐことができます。

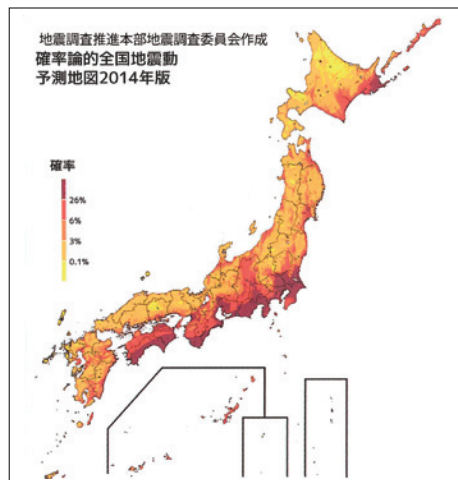
地震動予測地図にもあるように、地震は日本全国どこにでも起こり得ることで、お墓のプロとしてしっかりと事前に備えて頂きたいと思えます。



(アンカー講習会の実技風景)



(弾性接着剤の適正使用量サンプル)



(地震動予測地図)

TOPIC 3

オススメ商品

回収袋(自立タイプ)

土・砂・砂利等の運搬・移動の際に、一人では回収してきた土・砂・砂利をなかなかうまく袋に収納出来ずイライラとしたことはありませんか。自立タイプの回収袋は中にポールが入っております。その結果、袋自体が口を開けて自立しますので、回収してきたものを一人で袋に収納することが可能です。使用しない時は折りたたむこともできるので、持ち運びにも便利です。サイズ・容量は下記の表参照下さい。作業効率上がることで、時間短縮にも繋がり、結果、コスト削減になるオススメ商品です。



品番	サイズ(間口×奥行×高さ)	容量	材質
TJB40	400×400×400	70.4ℓ	ポリプロピレン
TJB53	530×530×530	148.9ℓ	ポリプロピレン
TJB60	600×600×700	252.0ℓ	ポリプロピレン

TOPIC 4

福建省の丁場情報

アモイ港に隣接しているG-623の丁場は2012年より政府の指示により全面的に採掘停止(閉山)しております。

現在、中国国内での原石在庫数は7000~8000m³と言われており、数年後に枯渇すると予想されています。

また、福建省で採掘される他の丁場も同じように閉山するところが増えてきており、今後新石種が増えることは少ないと思われます。

中国では不動産バブルで高級マンションの建築ラッシュが続いており、海外の石がたくさん輸入されています。

将来を見据え、中国以外の石を探すことも必要な時代になったのではないかと思います。3月に開催される廈門石材展示会では、それらの海外の石を見ることが出来ます。当社も出展しておりますので、今から計画を立ててみてはいかがでしょうか？



藤栄研材工業株式会社

大阪本社 〒578-0944 大阪府東大阪市若江西新町4-5-25
東部営業所 〒327-0817 栃木県佐野市伊勢山町14-10

ウェブサイト
<http://touei.ne.jp>



フェイスブック
<https://www.facebook.com/touei.kenzai/>



商品についてのお問い合わせ・ご注文等は、お近くの石材工具販売店様までお問い合わせください。

TOUEI ドットニュースは、メールでも配信しております。配信をご希望の場合は <http://touei.ne.jp/enquity/> にて必要事項、題名または本文に「ニュース希望」とご入力の上、送信ください。

